

### 車窓を楽しめない鉄道の旅 その3 名古屋地下鉄の旅 その② 桜通線

愛知環状鉄道を楽しんだ翌日は、高校時代の友人との昼食までの時間を「地下鉄乗りまくり」に充てることにした。



名古屋の地下鉄は、古くからある地名が駅名として残されているので路面電車のような雰囲気があり、町の歴史を見るのにも最適な感じがする。

2017年に名古屋を訪れたときには名城線・東山線とリニモに乗ってみたので、今回は桜通線と鶴舞線に乗ってみることにした。

荷物を名古屋駅のコインロッカーに預け、「地下鉄全線24時間券(760円)」を買って出発。

どうせやるなら始発から終点まで乗らないと意味が無い。まずは名古屋駅から中村区役所まで一駅だけ乗って、徳重行の始発から終点までを堪能することにした

**中村区役所**はその名の通り中村区の区役所へのアクセスとして作られた。市営地下鉄の駅名に「区役所」が付いているのは、中村区・瑞穂区・港区の三区だけ。中村区役所は名古屋駅から1Km余の距離でさほど不便な所だったとも思えないが、中村区が東西に広がっているため、西部居住者の利便性を考慮したのだろうか。

**名古屋**駅で乗客の殆どが下車してしまい、入れ替わりに多くの客が乗って来た。

桜通の下を東に向かって走り、庄内通りを横切る交差点に**国際センター**駅がある。交差点の北東側にあるのが名古屋国際センター。名古屋市の国際化計画である「国際文化村構想」に基づき1984年に開設された。

伏見通りとの交差点が**丸の内**駅。地名が示すように、城下の中核部にある。

尾張徳川の初代藩主徳川義直が「久しく繁盛する街」との願いを込めて久屋町と名付けたのが久屋町の始まりと言われており、元の名は干物町だった。**久屋大通**は、太平洋戦争による名古屋空襲で壊滅的な被害を受けた町の復興計画の中で「災害に強い街作り」の一環として南北に走る100m道路としてできた。

**高岳**(たかおか)は、尾張徳川家ゆかりの高岳院(こうがくいん)という寺の名前が由来となっている。この辺りは入り海となっていて、汐見山という小高い丘の上に建てられたことから寺の名が高岳院となった。ここまで東に向かっていた電車が少しずつ東南東にカーブし始めると**車道**(くるまみち)。江戸時代に御下屋敷の造営にあたり石材を運ぶ馬車や荷車用に石畳の道を作ったのが由来。

車道駅を出ると右に大きくカーブして南南西に向かい、東山線と交差する**今池**駅に入る。江戸時代に伝馬役の馬に水浴びをさせるのに使う池(馬池)があった。馬池が転じて今池となったと言われており、後の世では農業用水としても使われた。

**吹上**、昔はこの辺りまで入江が入り込んでいたので、入江の高い丘の様な地形の所は真砂が風で吹き上げられた。同じ由来を持つ地名は全国に沢山ある。駅近くの千種通りあたりが海拔16~18mの丘になっているが、現代の地形図を見ても海岸線の名残は感じられない。

鶴舞線との交差点が**御器所**(ごきそ)。駅上には昭和区役所があるが、駅名としては由緒ある地名を優先したの

だろう。熱田神宮の神領で神事に使う土器を整える場所だったことが地名の起源。吾妻鏡に記述がある古い地名のようだ。漢字で書いたら読めないし、平仮名で書いたら意味がわからない難しい地名だ。駅の南西方向にある御器所八幡宮は、熱田神宮の鬼門の守護として鎮座したと言われている。

南に走り続けると**桜山**。昔は桜並木の名所があったらしい。駅の隣に名古屋市立大学と同大学病院がある。

**瑞穂区役所**は、その名の通り区役所へのアクセスのために設置された駅。今は区名になっているが、昔は瑞穂村と言っていた。明治元年京都から東京への都の移転に際して移動中の明治天皇がこの地を訪れた。収穫に励む農民達を見て随行の岩倉具視が明治天皇に稲穂を献上したことが由来となっているという説があるが、単に「豊葦原瑞穂の国」からとったと言う説もあるらしい。

南南東へ真っ直ぐに走り続けると**瑞穂運動場西駅**になる。その名の通り、桜通線と名城線との間に大きく広がる瑞穂公園の西側入口への最寄り駅になる。公園の真ん中を山崎川が流れていて親水公園などもあり、只の運動公園だけではない造りになっている。この地は萩山と言って、往古は海辺に面した河口の高台になっていて、古代人の遺跡が数多く発掘された。

南進する桜通線が名城線と交差するところが**新瑞橋**(あらたまばし)。山崎川に架かる橋の名前が駅名になっている。この橋は新屋敷村と瑞穂村の間に架けられたことから両村の文字を合わせて付けたのが由来ということがわかったが、「新」と「瑞」を「あらたま」と難しく読ませることになった経緯を探ったがわからなかった。

**桜本町**(さくらほんまち)。東海道を挟んで南側には名鉄の桜駅もある。昔はこの辺り一帯を桜村と言ったので、その名残として今でも桜台・元桜田町・西桜町などの町があり、桜小学校・桜田中学校・桜台高校など学校の名前としても使われている。桜本町を過ぎると左へほぼ直角に曲って東南東に進路を取る。前述の三つの学校のほぼ中間にある**鶴里**駅に入る。駅の北側に鶴田、南側には鶴里町、その東側には北から南へと流れる天白川。駅周辺は海拔 3m 位の住宅地だが、鶴が飛来するような土地だったのかもしれない。地図を丹念に眺め回して見ると、中江・大堀町・軍水町・古川町・福池・・・、水と関係する地名が並んでいる。

地下鉄なので地上の景色がわからないが地形図を見ると、天白川を横切った後少しずつ高度を上げて海拔 10~20m 位の鳴海丘陵になる。

**野並**(のなみ) 駅付近は海拔 8m、「尾張国地名考」に「鳴海野に並ぶので野並となった」ことが記されているとのこと。二本の支流が天白川に合流する地点に近く、洪水被害が繰り返された土地のようだ。湿地・沼地で鶴が飛来する場所でもあったらしい。

**鳴子北**(なるこきた) 駅は海拔約 20m。北に広がる相生山は海拔 40~50m の丘陵地帯で、南には鳴子池。鳴海・鳴子・鳴尾など「鳴」の字が付く地名が目立つ所だが、「なるい(ゆるやか・なだらかを意味する)」からきていると言う説が有力らしい。

**相生山** 北に戸笠池、南に螺貝公園、地図を見ると付近に「ほら貝」という町の名がある。相生山という山が一番近いのは鳴子北駅で、相生山駅からは北西方向に少し離れてしまう。広大な緑地は「相生山緑地」と名がついて市民の憩いの場になっているが、戦時中は広域避難場所となっていたらしい。

しばらく東進を続けていた電車は右にカーブして南東に向かうようになり、名古屋第二環状道路の手前にある**神沢**(かみさわ) 駅に入る。この地にある神ノ倉・神沢などの地名の「神」はこの土地の熊野社を指し、ほら貝(法螺貝)の地名も同じ流れを汲む物に違いない。

終着駅の**徳重**(とくしげ) は、天白川の支流である扇川の右岸にできた新興住宅地。終着駅なので地上に出てみたら、駅の南側に大きな池(要池)がある。池の水は扇川に繋がっており、地図上で流れの元を辿ると上流に神沢池がある。山から下りてくる水の流れを貯めるような大小の池がそこかしこに点在している。

駅の北側には「ヒルズウォーク徳重ガーデン」という大規模商業施設が建ち、どちらかというコンクリートの街といった雰囲気、とりわけ散策してみようと思うような気分にはならない。一旦地上に出て外の空気を吸い込んだだけで、再び地下鉄ホームへ。

次のターゲット「鶴舞線」を目指して、乗換駅の御器所へ戻ることにした。

以上